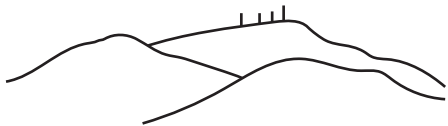


Youth Manna

2020/4/6 - 4/12



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/4/6(月)

伝道者 4 章

4 章には、「私は…見た」ということばが四度繰り返されているよ。今の時代の私たちも見る光景ではないだろうか。

①虐げられている者の孤独 (1-3)

慰めてくれる人のいない孤独

②孤独な競争 (4-6)

この世の労苦と成功の裏にある人の妬み

③孤独な人 (7-12)

ひとりぼっちで生きる人の抱える空しさ

④孤立する権力者 (13-16)

年老いた王が知恵のある若い王に取って代われ、それが繰り返される。

あなたはどんな時に孤独や空しさを感じるだろうか。「わたしはあなたがたを友と呼びました」(ヨハネ 15:15) 私たちを友と呼んでくださるイエス様を心に迎えよう！この方の元へ行こう！イエス様に心を注ぎ出し、いつでも祈ろう！

2020/4/7(火)

伝道者 5 章

この章では貧困と富について特に語られているね。貧困がある時、政治的な墮落があり、弱者を考えず自分だけ富を得ようとする罪があります。(8.9) そして人が富を持つことにも危険があります。富や金銭は人群がらせるが、富は人の心を満足させることも本当の平安を与えることも出来ません。(10.11) 私達は何も持たずに裸で生まれ、死ぬ時も何も持っていくことはできません。最後には残らない物に価値を置くことは虚しいことです。(15) しかし私達が命の日の限り働き、そこで得た富を使うとき、それが全て神様から与えられたこと感謝して計画的に使うなら喜びがあります。(19)

今与えられている経済を当たり前と思わず神様に感謝しよう！そして計画的に捧げ、使おう！！

2020/4/8(水)

伝道者 6 章

ある人は神から豊かさと栄誉を賜り、全て望むものが与えられた。しかし、他人に楽しみを奪われることがあったとしたら空しい(2)。またある人は、多くの子どもと長寿、富にも恵まれる。しかし、心に不満があり、家族と上手くいかずに墓にも葬られなかったなら空しい(3-6)。さらに、美味しいものをどれだけたくさん食べても、これ以上食べなくても良いということはなく、お腹は減るだろう。食欲には空しさが伴う(7)。

人生において何が良いことなのかという問いの答えは、私たちをお創りになった神様だけが知っているのである。つまり神様を抜きにして考えるならこの世界は「空」である。神はいないとし、空しい生き方をする人に、私たちはどのように宣教できるだろうか？神様とともに歩む恵みを覚えつつ、宣教について考えて祈ってみよう！

2020/4/9(木)

伝道者 7 章

今日は 13 節に注目しよう。「神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできるだろうか。」人生の苦難にあっては、神のみわざとしてこれを認めていくことである。すべては神の意志に服従している。どんなに不満を覚えることがあっても、私たちにそれを変えることはできない。むしろ、人は神を認め、神のなさることを見極めなくてはならない。順境の時には素直に楽しみ、逆境の時には神に頼り耐え、この先を導かれる神に信頼することである。

今はコロナが猛威をふるっているが、この状況も全て神は支配されている。神様が私たちに語られていることを尋ね求めよう。分からないことがあっても、全てをゆだね、祈ろう！

今日は受難日

2020/4/10(金)

Ⅰコリント 15:1-11

今日はキリストが十字架につけられたことを覚える日です。なので明後日はイースターだよ。

●福音とはなにか

キリストが私たちの罪のために本当に死なれて 3 日後に復活したことが福音です。この福音は旧約聖書から預言されていて(イザヤ 53 章) イエスによって現実になりました(ヨハネ 19,20 章)。

●最も大切なこと

パウロがコリントの人に伝えた 1 番大切なことが福音です。大事なこのことなのでパウロは 2 回言っています。

●私たちの罪のために

福音を知るなら「私の罪のために死んだ人がいる」ことをも知らなくてはなりません。次のことを考えてみよう：私の罪とはなんだろう？神様はその私をどんな思いで見ているだろう？(エゼキエル 18:30-32)

2020/4/11(土)

Ⅰコリント 15:12-19

教会は、イエス様が私たちの罪のために死んで復活したことを信じ、それを伝えてきたね。でもコリントの教会では当時、死んだ者の復活はないと教える人たちがいて、パウロはそれに対してはっきりと違うと語った。

私たちはいつかは必ず、この身体の死がやってくるよね。多くの人はそこからの復活を信じるのがなかなかできない。だけど、死者の復活がないならイエス様のよみがえりもなかったことになる。だから、死者の復活がないと言うことは、自分で自分の救いの土台を壊していることになるんだ。でも、それは決して違うのをみんなは知っているよね。イエス様は確かに死からよみがえられた方！

死を打ち破り私たちのためによみがえられたイエス様を覚えよう！

2020/4/12(日)

Ⅰコリント 15:20-34

今日はイースターです！イエス様の復活を記念して「今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」と高らかに賛美される喜びの日です。今日の箇所ではパウロはイエス様の復活が事実だと宣言した上で、アダムが最初の人で、イエス様は復活した最初の人だと言います。「初穂」ということばは、その後に続くものがあることを表しています。それはアダムの罪によって死んだ者たちが、イエス様にあって生かされるということです。

パウロはイエス様が初穂として復活するのに続いて、再臨すること、キリストに属する者が復活すること、そのあとで世の終わりが来ることを言っています。「世の終わり」とは悲しいものではなくイエス様が王として治める時が来ることです。イエス様を信じる者として、この希望を持ち続けていきましょう！イエス様に「来てください」と喜んで言える信仰を持とう！